

わが

「海と大地に根ざす『生産・交流都市』 ねむろ」の実現に向けて

世界的にも貴重な自然を
未来へ残し伝える

根室市は、北海道の東端に位置し、太平洋とオホーツク海という恵みの海に囲まれ、干潟、海、湖、湿原、森など多様で類いまれな自然環境を有し、世界に誇れる自然豊かなまちです。

中でも、数千年前の手つかずの



「奇跡の島」とも呼ばれる春国岱

自然が現存していることから「奇跡の島」とも呼ばれている春国岱は、長さ約8kmの細長い砂州で、広大な湿原、森林、砂丘など変化に富んだ自然が広がっております。また、砂州によって海と隔てられた風蓮湖ふうれんこと合わせて、ラムサール

条約登録湿地に指定されており、砂丘の上にあるアカエゾマツの純林は世界でも2例しかない大変珍しいものです。

また、渡り鳥の中継地でもある本市は、日本で見られる野鳥、およそ630種類のうち、6割の373種類が観察できる野鳥の宝庫として知られており、エトピリカやタンチョウ、オオワシといった、北海道の東部以外ではなかなか出会うことのできない希少な野鳥も見られることから、国内はもとより世界各国からバードウォッチャーが訪れます。

市街地から程近い場所でも、こうした野生動物たちに出会うことができるのが本市の大きな魅力の一つであることから、誰でも自由にご利用いただけるハイドと呼ばれる野鳥観察小屋を市内各所に設

置したほか、毎年冬には、ねむろバードランドフェスティバルを開催。「野鳥の楽園」根室へ訪れる観光客の皆さまに対し、野鳥観察の魅力発信に努めています。

強い「水産都市・根室」の再生・再興へ

本市は北方海域の豊かな水産資源を背景に発展してきた、全国でも屈指の水産都市であり、北洋漁業の開拓とともに発展を遂げてきました。しかし、近年の国際漁業規制の強化などによって、沖合漁業は縮小を余儀なくされるなど、漁業を取り巻く環境は厳しい状況にあります。

特に平成28年1月以降、ロシア連邦の200カイリ水域においてのサケマス流し網漁の禁止や、近年、主要魚種が軒並み漁獲不振と

なり、令和元年は、数量で10年連続、金額では22年連続日本一を記録するサンマの水揚げ量が、自然災害ともいえるほどの記録的な大不漁となるなど、塗炭の苦しみを垣間見た1年となりました。

こうした中、「根室市沿岸漁業振興計画」の下、持続可能な漁業生産を目指し、本市独自の水産研究所において、花咲ガニやホッカイシマエビなどの海産生物の基礎的研究を行っているほか、ヤナギダコ資源の生態や資源増大については、産学官連携研究開発事業として、市内民間企業と東海大学海洋学部、本市が共同で研究するな



ベニザケ海中養殖飼育実証実験の様子



本土最東端の岬から望む北方領土

私たちが北方領土と呼ぶのは、歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の四島であり、本市は、北方領土返還要求運動原点の地として、関係団体と共に、戦後一貫して国民世論の形成や返還に向けた環境づくりなど、一日も早い問題解決に向け、全国の先頭に立って北方領土返還要求運動に取り組んでおり、正しい認識と早期解決の思

北方領土返還実現のその日まで

ど沿岸漁業資源の増大に取り組んでいます。また、養殖で安定的に生産する「育てる漁業」への挑戦として、市内4漁協と共に根室港内でのベニザケ養殖の実証試験を進め、国内初のベニザケ養殖事業化を目指すほか、本年2月には、これも国内初となるトラバガニ養殖の事業化を目指す協議会を発足させるなどの取り組みを進め、「水産都市・根室」の再興を成し遂げたいと思っております。

いを国内外に強く発信してまいりました。

終戦当時には、1万7291人いた元島民も既に6割を超える方が亡くなられ、平均年齢も85歳を超えている現状であります。

このことを思うと、私たちに残された時間は少ないですが、私は、北方領土問題の解決は、元島民の方がいてこそ、うれし涙を流せる方がいてこそその決着が最も重要であると考えます。

そのためにもさらなる外交努力が必要であり、北方領土返還実現のその日まで、引き続き全国の先頭に立ち、返還運動を強力に推進してまいります。

市民誰もが住み慣れた根室で生き生きと暮らすことができるように

現在本市では、平成27年度からスタートした第9期根室市総合計画において掲げた将来都市像である「海と大地に根ざす『生産・交流都市』ねむろ」を実現するために、本市が持つポテンシャルを最大限に引き出し、市民と行政が共に考え、共に行動しながら、市民が「住み続けたい」、そして本市を訪れ

た皆さんが「住んでみたい」と思えるまちづくりを進めています。

地方都市においては、急激な少子高齢化の進行やそれに起因する人口減少など取り巻く環境は大きく変化しており、本市も克服すべき課題は山積しておりますが、決して下を向くことなく、先人が知恵と努力で築き上げてきた「故郷

プロフィール

- ◆ 面積 506・25 km²
- ◆ 人口 2万5070人
- ◆ 世帯数 1万2504世帯

〔将来都市像〕海と大地に根ざす「生産・交流都市」ねむろ

〔まちの特徴〕類いまれな自然環境を有し、先人たちが築いた歴史のロマンが今なお息づく全国屈指の水産のまち

〔特産品〕サンマ（水揚げ量日本一）、花咲ガニ、昆布※貝殻島周辺で取れる「貝殻島棹前昆布」、北の勝（根室の地酒）、エスカロップ、オランダせんべい



根室市長
石垣雅敏



〔観光〕日本最東端の岬「納沙布岬」、ラムサール条約登録湿地「春国岱」、野鳥の楽園「風蓮湖」、国の天然記念物「車石」と「落石岬のサカイツツジ自生地」、近代化産業遺産「明治公園」

〔イベント〕根室金刀比羅神社例大祭（北海道三大祭り）、根室かに祭り、根室さんま祭り、納沙布岬の初日詣、ねむろパードランドフェスティバル

根室」、根室の未来をしっかりと、令和に生まれてくる子どもたちに希望を添えて、手渡していく。今を生かされている私たちの重要な責務であり、そのためにも、「市民誰もが住み慣れた根室で生き生きと暮らす」ことができるよう市民の皆さまと一体となって、しっかりとまちづくりを進めてまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

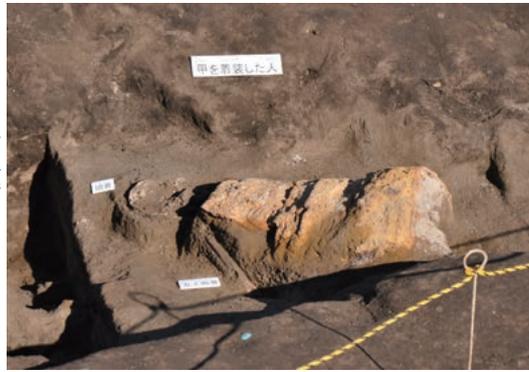
わが

日本のまんなか 水と緑といで湯の街 渋川市

自然の恵みと 歴史を感じるまち

渋川市は、日本そして群馬県のほぼ中央部、雄大な関東平野の始まる位置にあり、赤城山、榛名山、子持山、小野子山に抱かれ、利根川と吾妻川の合流点の谷口集落として形成されています。標高差はおおむね1400m以上となる起伏に富んだ地形を有するため、木々や花々の彩りを長期間にわたって楽しむことができます。

平成24年11月、国内で初めて古墳時代の甲を着けた状態の成人男性の骨が市内で見つかりました。これまで、火山の噴火で亡くなった古墳時代の人が発見されたことはなく、さらに甲を着けた状態であったため、貴重な発見となりました。この他にも、本市には国指



甲を着けた状態で見つかった古墳人

定史跡の黒井峯遺跡など、古くから人々が定着していた痕跡を残す遺跡が各所にあります。

豊かな自然環境の恵みにより、日本の名湯である伊香保温泉をはじめ、美人の湯で知られる小野上温泉のほか、渋川温泉、北橘温泉、白井温泉などの泉質の異なる魅力的な温泉が市内に点在しています。

す。変化に富んだ魅力的な山々の登山を楽しむとともに、温泉をご堪能いただければと思います。

高速交通網の整備

本市は、江戸時代の初めから江戸と越後を結ぶ三國街道の宿場町として、交通網が整備されてきました。令和3年に開業100年を迎えるJR上越線や吾妻線の鉄道2路線、関越自動車道、地域高規格道路である上武国道などが整備され、さらに本年6月には、本市から長野県東御市に至る約80kmの地域高規格道路上信自動車道の一部、(本市の金井ICから東吾妻町の箱島ICまで)約7・3kmが開通しました。

関東と新潟、長野を結ぶ交通の結節点としてのポテンシャルを生かし、産業や観光、防災機能の強

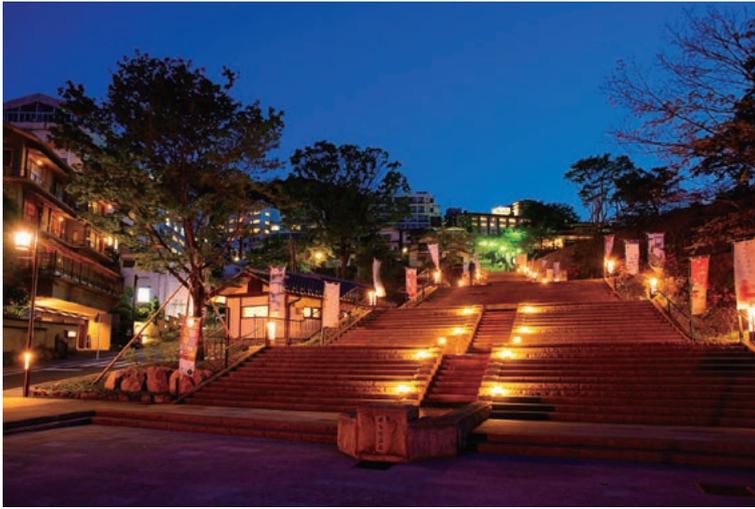
化を進めて、交流都市渋川を発展させていきます。

保育料や学校給食費の完全無料化などを推進

令和元年10月から幼児教育・保育の無償化が実施されました。国の制度における対象は、幼稚園・認可保育施設・認可外保育施設などを利用する、3歳から5歳の全ての児童および0歳から2歳の住民税非課税世帯の児童としていますが、本市では、国の制度対象外である0歳から2歳の住民税課税



子育て支援総合センター



悠久の歴史を誇る「伊香保温泉」

世帯の児童も対象として、「完全無料化」を実施しています。副食費が実費徴収となる2号（保育）認定の子どもについても、第2子以降の副食費を市独自で支援（免除）しています。

また、本市では小中学校の給食費の完全無料化を平成29年4月から行っているほか、令和3年度から特定原材料7品目を取り除いたアレルギー対応食の先行実施施設となる、アレルギー対応給食センターの本格稼働も予定してい

ます。

これらの子どもたちに対する政策については、将来の本市への投資だと考えています。子どもたちが生き生きと健やかに育ち、将来本市で活躍してほしいと思います。

日本のへそ、根っことなる都市を目指して

現在、新型コロナウイルス感染症が拡大し、新たな生活様式が取り入れられています。そのような中、全国的に進んでいる各企業のテレワークですが、災害が少ない群馬県はテレワークを行う場所として最適であると考えています。

災害が少ない中でも、本市では、消防・防災に力を入れていきます。例えば、渋川広域消防本部が独自に開発した「渋消式」と呼ばれる消火方法があります。全国から多くの視察もいただきましたが、この消火方法により、平成30年の全国平均約20%の延焼率は、本市においては0%となっています。

また、移住支援・空き家対策として、移住者住宅支援、空き家家財道具片付け補助金、空き家隣地

統合補助金、空き家リフォーム工事への補助など、さまざまなメニューを用意しています。そうしたメニューと組み合わせ、サテライトオフィスの誘致を進めたいと考えています。

恵まれた立地条件と自然や歴史文化を生かして、さまざまな課題に挑戦するため、新たに市役所に市長戦略部と政策戦略会議を設置

しました。持てる資源を最大限に発揮するシステムを構築し、未来都市渋川の建設を進めています。

日本を代表する温泉地である伊香保温泉を有する「日本のまんなか 水と緑といで湯の街 渋川市」。単に地理的に日本列島のまんなかというだけでなく、小さくても、日本の根っことなる都市を目指してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 240.27km²
- ◆ 人口 7万6277人
- ◆ 世帯数 3万2407世帯

〔将来都市像〕やすらぎとふれあいに満ちた、ほっと、なまち

〔まちな特徴〕伊香保温泉をはじめとした豊富な温泉と豊かな自然に恵まれ、歴史と文化が息づく品格あるまち

〔市町村合併〕平成18年2月20日、渋川市、伊香保町、小野上村、子持村、赤城村、北橋村の新設合併



渋川市長
高木 勉



〔特産品〕水沢うどん、こんにゃく、そば、創作こけし、伊香保つる細工、北橋竹工芸など

〔観光〕伊香保温泉などの温泉施設、小野池あじさい公園、渋川スカイランドパーク、徳富蘆花記念文学館など

〔イベント〕石段ひな祭り、白井宿八重ざくら祭り、日本のまんなか渋川へそ祭り、伊香保ハワイアンフェスティバル、渋川山車まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「風格と魅力ある都市 ひこね」 「にゃんといいまち彦根」

水と緑、歴史・文化資産に
恵まれたまち「彦根」

彦根市は滋賀県の東北部に位置
しており、西は琵琶湖に面し、東
は鈴鹿山系の山並みを望む、水と
緑の豊かなまちです。関ヶ原の合
戦の功績により井伊直政が彦根藩
主となった後、江戸時代を通じ、
徳川幕府の重責を担う彦根藩井伊
家の城下町として繁栄し、今なお
国宝・彦根城をはじめとした貴重
な歴史資産が数多く残っています。

また、市内には滋賀大学、滋賀
県立大学、聖泉大学の3大学が立
地し、6千人弱の学生が在籍して
いるほか、ミシガン州立大学日本
連合センターも立地するなど、国
際色も豊かな文化・学園都市の側
面も併せ持っています。

このうち、滋賀大学には、本年

4月に日本初となる「大学院デー
タサイエンス研究科博士後期課
程」が創設され、超スマート社会
には欠かせないデータサイエン
ティスト育成に取り組みられてお
り、本市としても大きく期待を寄
せているところです。

彦根城の世界遺産登録 に向けて

彦根城は平成4年に世界
文化遺産の暫定リストに記
載されました。

以降、世界遺産登録に向
け、先に登録された姫路城と
異なる普遍的な価値を証明
するために、さまざまな検討
を行ってまいりました。

彦根城は天守や各櫓やぐらが今
もなお現存しており、中堀か
ら内側を中心とする特別史

跡の範囲には、大名庭園である
玄宮園げんきゅうえんや彦根藩の政庁であつた
表御殿跡おもてごてん、重臣の屋敷、藩校跡な
ど、当時の政治体制に必要とされ
た施設の遺構や建物が残っており
ますので、世界遺産登録に向けた
考え方や方向性を令和元年度末に



400年以上の時を経て当時の姿をとどめる国宝・彦根城

まとめ、県と市の連名で推薦書原
案を文化庁に提出いたしました。
今後もさらに推薦書原案の内容を
練り上げ、令和4年の国内推薦、
令和6年の世界遺産登録を目指し
ており、登録作業を通じて、世界
遺産にふさわしい、世界に開かれ
たまちづくりを進めたいと考えて
おります。

スポーツと文化が つながる新しい市民の 交流拠点施設

令和6年に滋賀県で開催が予定
されている「第79回国民スポーツ
大会・第24回全国障害者スポーツ
大会」（以下、国スポ大会）につ
きましては、主会場は県立の「（仮称）
彦根総合運動公園陸上競技場」で
開催されることが内定しています。

本市では開・閉会式のほか、陸
上競技、ハンドボール、弓道、な
ぎなたの4種目の開催が内定して
おりますが、このうちハンドボー
ルおよび弓道の会場となる「（仮
称）彦根市新市民体育センター」



令和6年開催予定の国スポ大会の会場となる「(仮称)彦根市新市民体育センター」

を令和4年6月の完成を目指し、整備を進めているところですよ。

同市民体育センターは、スポーツと文化がつながる市民の交流拠点として位置付けており、国スポ大会を契機として、歴史・文化など多様な彦根の魅力を全国に発信し、観光振興や地域活性化につなげ、スポーツを通じた魅力あるまちづくりを進めたいと考えております。

これら本市の懸案事項に的確に対応するため、本年4月1日付けで「歴史まちづくり部」および「スポーツ部」を新設しました。文化財の保存や活用と都市計画を効果的に進めるとともに、これまで市長と教育委員会がそれぞれ所管していたスポーツに関する事務を一元化するなどの組織の見直しを行ったところです。

本市のキャラクター「ひこにゃん」について

最後に本市をご紹介する上で欠かすことができないのが、「ひこにゃん」の存在です。「ひこにゃん」は、彦根藩2代当主である井伊直孝公をお寺の門前で手招きして雷雨から救ったとされる「招き猫」と、井伊軍団のシンボルともいえる赤備えの兜かぶとを合わせて生まれたキャラクターで、誕生日にはたくさんの方々がお祝いに駆け付けてくださいます。



全国のご当地キャラクターが一堂に会する祭典「ご当地キャラ博in彦根」

残念ながら本年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、「ひこにゃん」が彦根城に登場できない日々が続いておりましたが、5月23日から彦根城周辺での登場を再開いたしました。1日3回、彦根城天守前広場や彦根城博物館(冠木門かぶきもん)に登場し、お越しいただいた皆さまをお出迎えしています。

プロフィール

- ◆ 面積 196.87 km²
- ◆ 人口 11万2522人
- ◆ 世帯数 4万8551世帯

〔将来都市像〕 風格と魅力ある都市の創造

〔まちの特徴〕 琵琶湖と鈴鹿山系の豊かな自然に囲まれ、江戸時代における彦根藩の城下町として、貴重な歴史遺産が数多く存在するまち

〔特産品〕 彦根仏壇、バルブ、ファンデーション、近江牛、カラム(彦根の)



彦根市長
大久保 貴



伝統的ゲーム、彦根梨
〔観光〕 国宝・彦根城、名勝・玄宮楽々園、彦根城博物館、夢京橋キャッスルロード、佐和山城跡、荒神山、多景島
〔イベント〕 彦根城桜まつり、鳥人間コンテスト、彦根ゆかたまつり、ご当地キャラ博in彦根、彦根シテイマラソン、ひこねの城まつりパレード、錦秋の玄宮園ライトアップ



彦根市キャラクター「ひこにゃん」。特別住民票も持ち、誕生日は4月13日

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

とさしみず
土佐清水市（高知県）

土佐清水市長

ひじやみつのぶ
泥谷光信

わが

故郷を大切に思い、
新たな時代へつなぐ

大自然に育まれたまち

土佐清水市は、四国西南端に位置し、昭和45年に竜串地域たぐくしが全国で最初の海中公園（現海域公園）に指定、昭和47年には市域の海岸



足摺岬の岸壁に立つ白垂の灯台

部のほとんどが「足摺宇和海国立公園」に指定されるなど優れた自然景観を有し、足摺岬・竜串地域は観光業が盛んな地域であります。また、黒潮が日本列島に最初に接岸する足摺半島・白碇の沖合うすばえ一帯は古くからの好漁場で、一本釣りで捕れるマルソウダ（メジカ）を加工した宗田節そうだぶしは、全国シェア約7割を占めるなど、漁業・水産加工業も市の基幹産業となっております。

本市には、空港や駅、高速道路などの交通施設は整備されていませんが、それゆえに、南国の太陽と青い空、滴る緑と恵み豊かな海など、美しい大自然を肌で感じることができます。また、地元の方々の人情あふれる人柄で、訪れた観光客の皆さまを温かくおもてなしいたします。

子どもたちにジョン万
スピリットの継承を

本市を代表する偉人として、日本人で初めてアメリカに渡り、測量や航海術などを学んだ後、鎖国時代の日本に帰国し、日本の夜明けや国際交流に多大な功績を残した「ジョン万次郎（中浜万次郎）」がいます。万次郎のどんな状況下であっても、自分が置かれた境遇を前向きに受け入れ、決して逃げ出すことなく、最後まであきらめずに立ち向かって生きる姿勢は、今でも「ジョン万スピリット」として、語り継がれています。

本年3月に、本市の子どもたちが、郷土の偉人・万次郎の功績を再確認するとともに、一生懸命に生きた万次郎の生涯を学習できる伝記集（副読本）が完成しました。



ジョン万次郎の生涯を学ぶことができる「ジョン万次郎資料館」

内容としては、各学習段階に合わせて活用できるよう区分して、子どもと教師が共に学べる構成にしています。学校教育において、子どもたちが郷土の偉人を誇りに思う気持ち、教育振興基本計画の中にも組み込まれているジョン万スピリット（旺盛なチャレンジ精神を持つ）「大事な場面で、自分で決断し、結果を他人のせいになし」「決してあきらめない」を育むとともに、子どもたちの心豊かでたくましい人間性を養う教育を

目指し、教育の多様化に見合う環境整備を進めます。また、ふるさとに根ざした教育を推進するとともに、一人一人の個性を生かし、生きる力を育てるための特色ある学校づくりに、地域社会と連携しながら取り組んでいます。

自然を生かした まちづくりの推進

本市では、国・県と連携した竜串地域再生プロジェクト事業を推進しており、「スノーピーク土佐清水キャンプフィールド」が平成31年4月にオープンしました。海



海に面し、広々としたキャンプサイトを有する「スノーピーク土佐清水キャンプフィールド」

と隣接したキャンプ場となっており、海へのベースキャンプとして多彩なアウトドア観光の拠点となっています。また、「足摺宇和海国立公園竜串ビジターセンター（うみのわ）」が、本年3月20日にオープンし、自然資源を保全・活用する取り組みや国立公園の情報発信しています。併せて、同センターは、日本ジオパークネットワークへの加盟を目指し、地域を支える人づくりを基本に、持続可能な活動による地域の活性化、さらにその先にある観光振興につなげる活動をしている「土佐清水ジオパーク構想」の拠点施設に位置付けています。また、竜串エリア全体が大きな自然のミュージアムをコンセプトに設計され、目の前に広がる竜串湾の自然やマリナクティビティと連動する「新足摺海洋館（SATOMI）」が本年7月にオープンしました。この竜串地域の活性化を本市全体に広げ、さらなる魅力を発信するため、自然・体験型観光の拡充を図り、地域の活性化につなげるよう取り組めます。

今後も、恵まれた豊かな自然環境を生かし、観光・産業事業など

に掲げる各種施策の実現に向けたまちづくりを進めていきます。

市民と共に新しい時代へ

今なお、世界中で猛威を振るっている「新型コロナウイルス」により、本市でも基幹産業である観光業や飲食業を中心に大きな影響を受けています。一刻も早く、元の生活を取り戻すために、国・県や関係機関と連携して、官民が一体となって、市民の皆さまに寄り

プロフィール

- ◆ 面積 266・34 km²
- ◆ 人口 1万3122人
- ◆ 世帯数 7204世帯

〔将来都市像〕愛と自然に満ちた活力あるまち

〔まちの特徴〕海と山に囲まれた豊かな自然環境に恵まれたまち

〔特産品〕宗田節、土佐の清水さば、姫かつお



土佐清水市長
泥谷光信



〔観光〕足摺岬、唐人駄馬遺跡、ジョン万次郎資料館、竜串海岸（見残し海岸）、新足摺海洋館（水族館）、足摺海底館（海中展望塔）、海のギャラリー（貝類展示館）

〔イベント〕ジョン万海の元氣まつり、市民祭あしずりまつり、足摺樺まつり、花へんろ足摺温泉ジョン万ウオーク

添った支援・施策の実施に取り組んでいるところですが、引き続き「子どもは宝」（子育て教育環境の充実）、「若者は希望」（基幹産業の復興による雇用の創出）、「お年寄りは誇り」（高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる仕組みづくり）、「命を守る」（南海トラフ巨大地震などの防災対策）、「絆は力」（地域や市民との絆を大切にしたいまちづくり）などの施策を進めてまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。